

婦人科腫瘍委員会

委員長 八重樫 伸 生

副委員長 永 瀬 智

委員 榎本 隆之, 片渕 秀隆, 川名 敬, 小林 裕明, 小林 陽一,
生水真紀夫, 馬場 長, 森重健一郎, 吉田 好雄, 吉野 潔

専門委員会幹事 徳永 英樹

1. 常置の事業

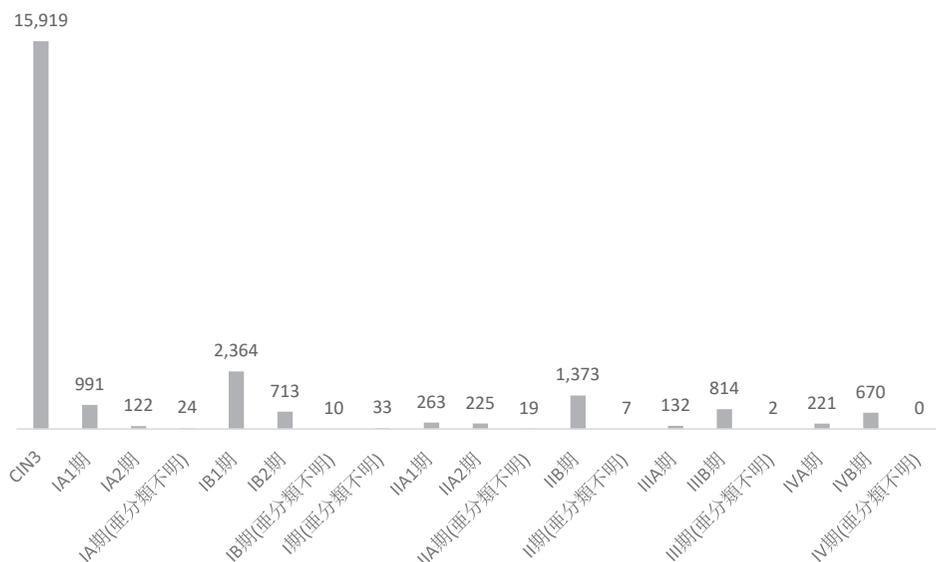
婦人科悪性腫瘍のオンライン登録事業として、2014年度より東北大学病院臨床研究推進センターと契約し、以下の項目を遂行している。

- (1) 2019年の婦人科悪性腫瘍症例(子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍(悪性, 境界悪性), 外陰癌・陰癌・子宮肉腫・子宮腺肉腫・絨毛性疾患)のオンライン登録事業を行った。
- (2) 加盟468機関より2019年1月1日から12月31日までに治療を開始した子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍(悪性・境界悪性), 外陰癌, 陰癌, 子宮肉腫, 子宮腺肉腫, 絨毛性疾患症例を集計・解析し症例の患者情報および2014年治療開始症例の予後情

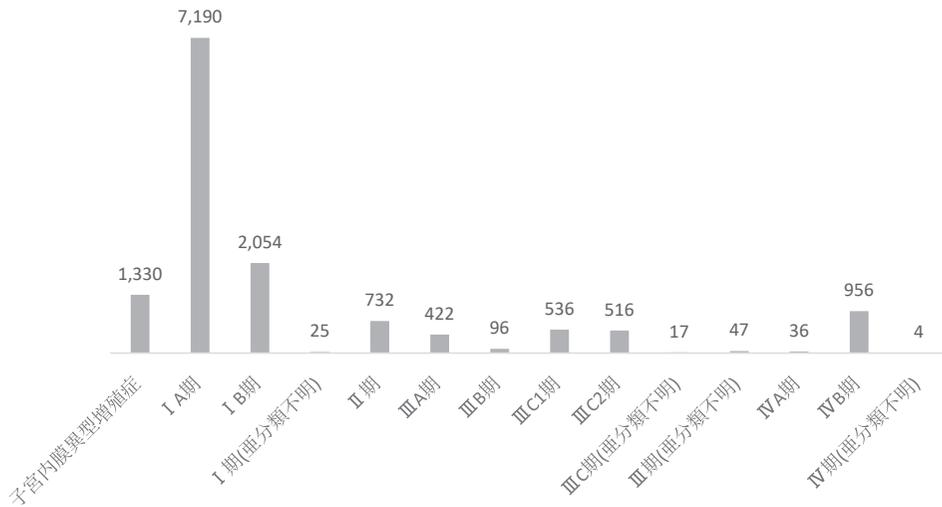
報を集計・解析し、疑義照会を行ったうえで、婦人科腫瘍委員会HP並びに日産婦誌に、2019年患者年報として報告する。以下に2019年患者年報の抜粋を示す。

- (3) 2014年に治療を開始した子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣腫瘍(悪性・境界悪性)症例の予後情報を集計・解析し、疑義照会を行ったうえで学会HP並びに日産婦誌に、第62回治療年報(2014年治療開始症例)として報告する。以下に第62回治療年報の抜粋を示す。
- (4) 2017年患者年報および第60回治療年報(2012年治療開始症例)英語版をJOG誌(J Obstet Gynaecol Res. 2021 Feb 25. doi : 10.1111/jog.14724.)に投稿

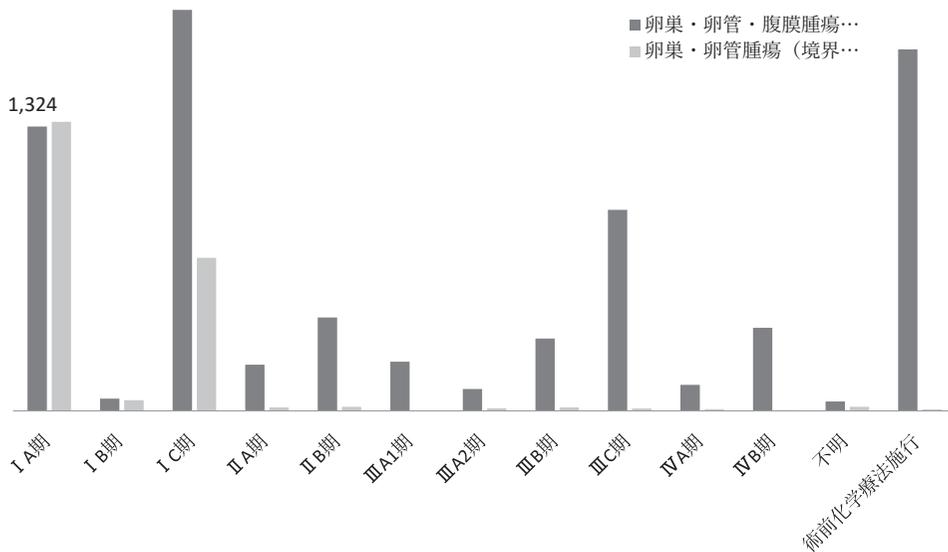
子宮頸癌 7,983 例、CIN3 15,919 例



子宮体癌 12,631 例、子宮内膜異型増殖症 1,330 例



悪性卵巣・卵管・腹膜腫瘍 7,737 例、卵巣境界悪性腫瘍 2,222 例



した。

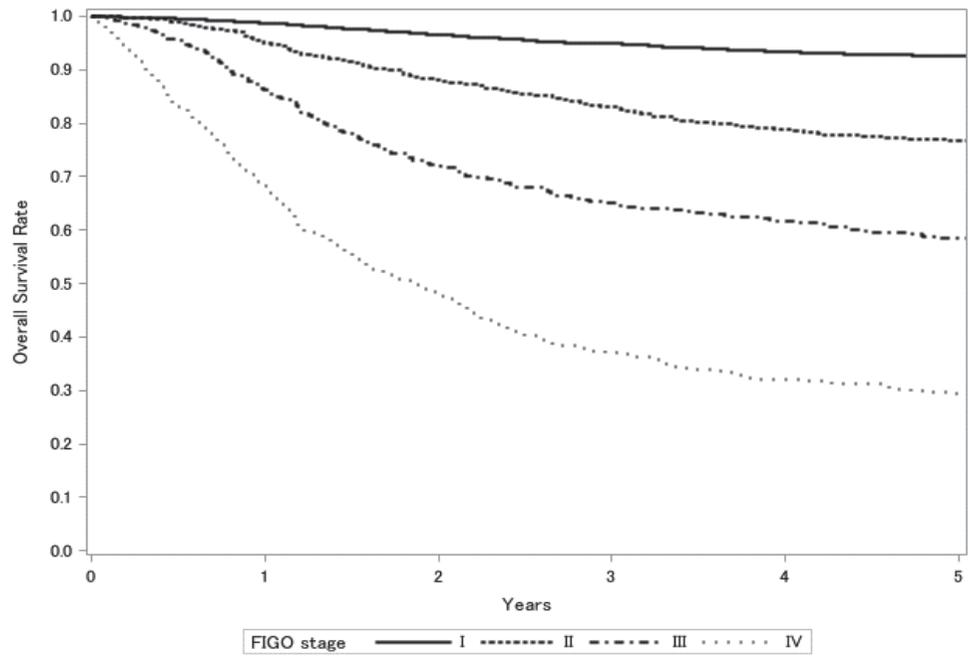
- (5) 学会HP並びに日産婦誌に2019年绒毛性疾患地域登録成績を報告する。

2. 親委員会活動について

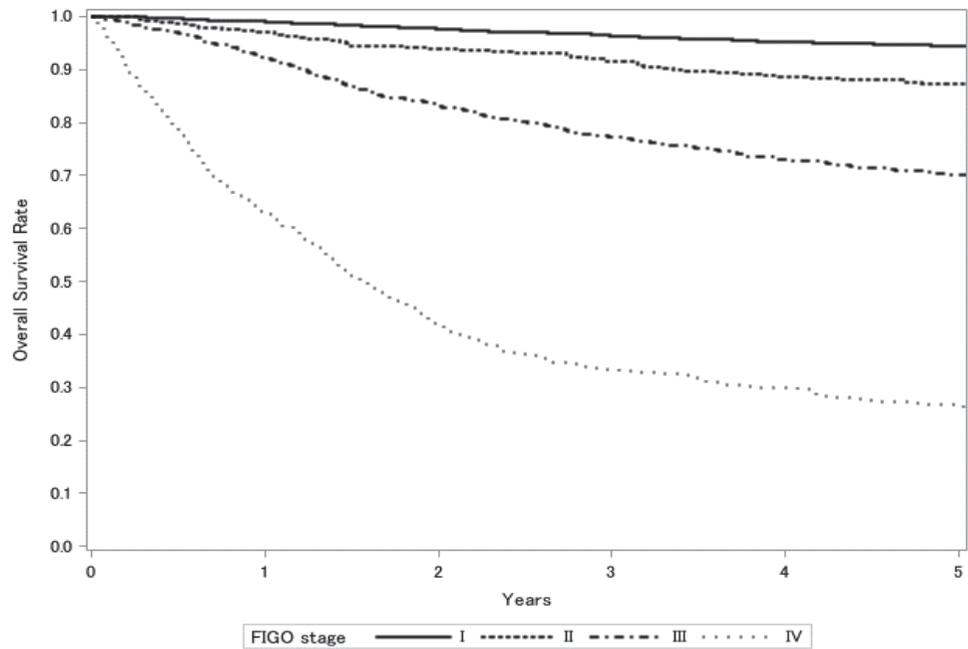
「日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録施設の広汎子

宮全摘出術の実態調査」「本邦における婦人科悪性腫瘍合併妊娠の調査」を実施中である。「子宮頸癌に対する妊孕性温存手術(単純子宮頸部摘出術, 準広汎子宮頸部摘出術, 広汎子宮頸部摘出手術)の実態調査」の解析結果は Gynecol Oncol. 2020 Feb ; 156 (2) : 341-348. に掲

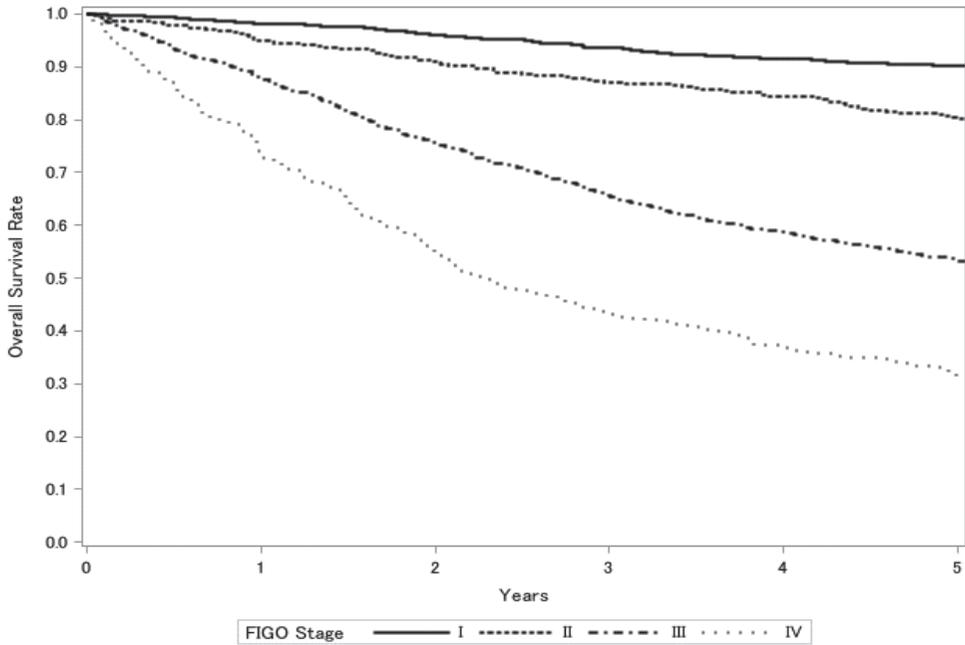
【子宮頸癌】



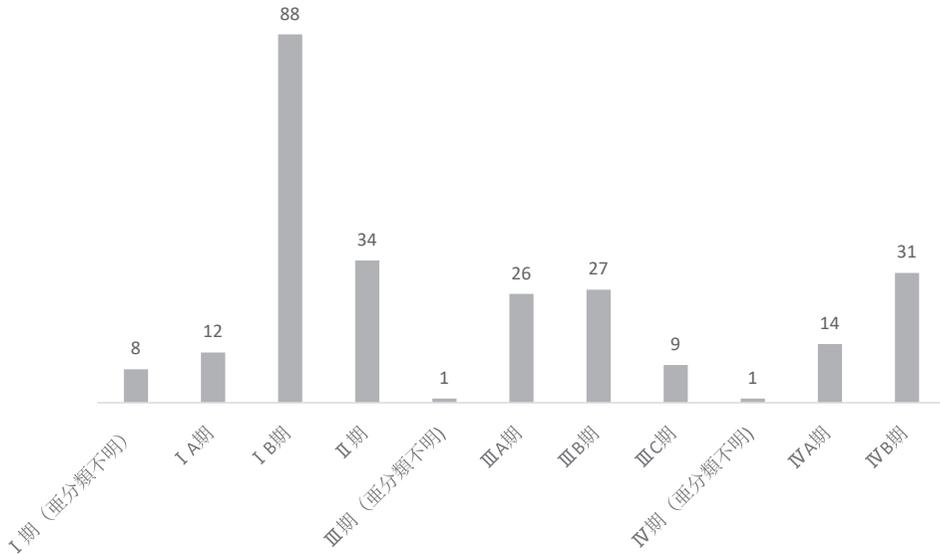
【子宮体癌】



【卵巣癌】



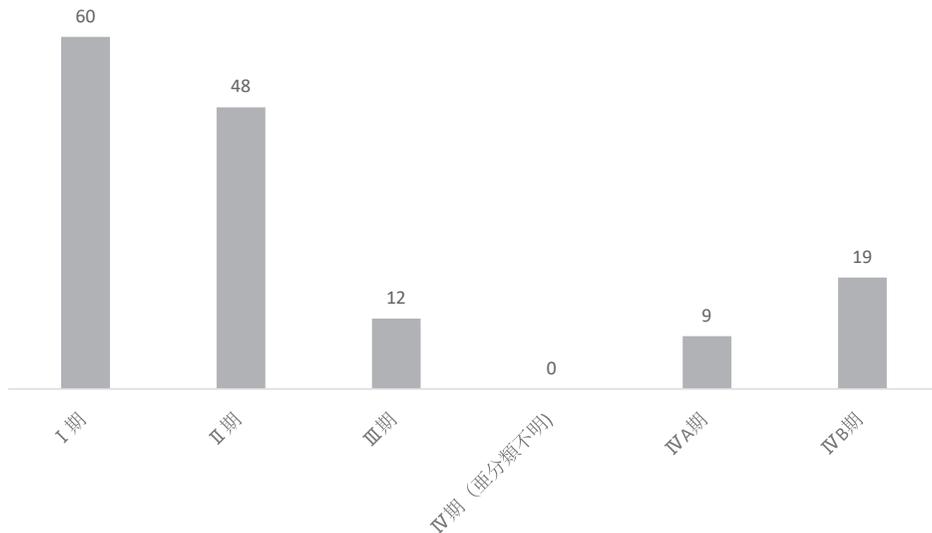
外陰癌 251 例



載され, Fertility and Sterility 誌に 2020 年 9 月に accept された.

婦人科悪性腫瘍登録事業データベースを用いた子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌の治療動向の推移および登録

腔癌 148 例



事業の課題の検証について、現在継続して行っている。

2020年10月までに、婦人科腫瘍登録データに関して2つの申請があり、臨床研究の審査ならびにデータベースの管理に関する本委員会の内規に基づいて婦人科腫瘍委員会内で審査を行い、データ利用を承認している。

「本邦における子宮内膜症の癌化の頻度と予防に関する研究(JEMS)」: 現在、追跡とデータクリーニング中であり、今後結果のまとめを予定している。

3. 小委員会事業

本年度は4つの小委員会が設置され、以下の活動が行われた。

(1) 婦人科悪性腫瘍登録システムの改良に関する小委員会

委員長 永瀬 智

委員 高橋史朗*, 徳永英樹, 三上幹男,
山上 亘, 吉野 潔

① 2019年治療開始症例から子宮頸癌手術症例に対する特別調査項目の追加を行ったが、今年度はその登録情報の収集を行った。これに合わせて疑義照会システムを新たに構築した。②登録実施者からの問い合わせなどを参考にして疑義照会システムの改良と登録Q&Aの改訂を行った。③子宮頸癌取扱い規約改訂に合わせ、登録実施要項の作成を行った。④患者年報・

治療年報の英語版を作成しJOGR誌に投稿した。

(2) 子宮頸癌の予防に関する小委員会

委員長 川名 敬

委員 井篁一彦, 上田 豊, 榎本隆之,
宮城悦子

① HPVワクチンと子宮頸がんについて、学会員および国民に最新かつ正しい情報を正確に伝えることを目的とし、「子宮頸がん検診・HPVワクチン促進委員会(宮城委員長)」と合同で、学会HPに掲載されている「子宮頸がんとHPVワクチンに関する正しい理解のために」を改訂した。②がん教育推進のための教材へのHPVワクチンの記載追加を文科省に要望した。③9価HPVワクチン承認を受けて、学会員および国民に向けて、本ワクチンの情報を提供する資料を作成し学会HPに掲載した。

(3) 低侵襲広汎子宮全摘術のあり方を考える小委員会

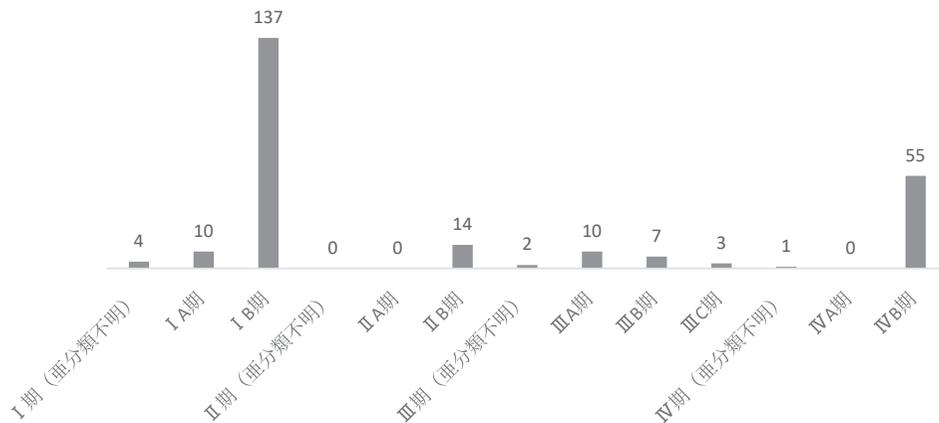
委員長 榎本隆之

委員 小林栄仁, 小林裕明, 永瀬 智,
山上 亘, 吉田好雄

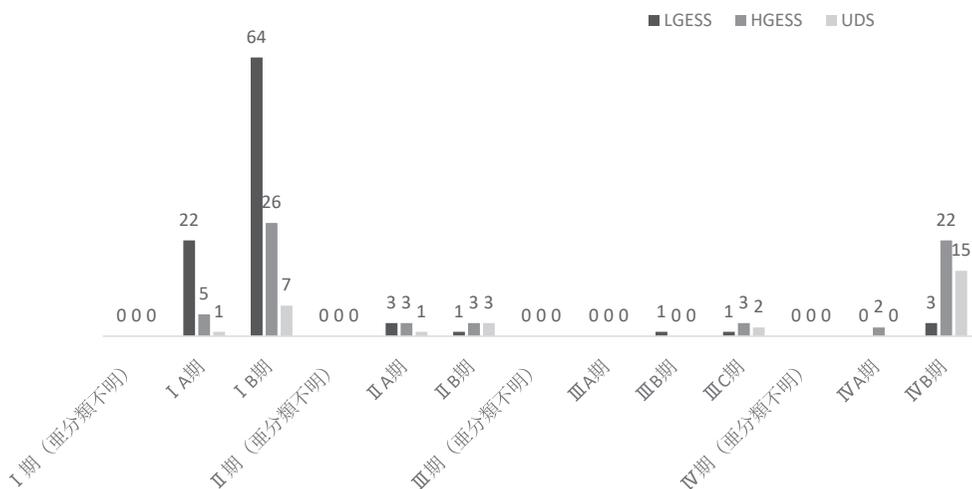
① 2020年6月に「子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘出術登録施設」申請の審査を行い、登録施設を学会HPに掲載した。②「子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘出術に関する指針」について3学会(日本産科婦人科学会, 日本婦人科腫瘍学会, 日本産科婦人科内

子宮肉腫 476 例

平滑筋肉腫 243 例



内膜間質肉腫 (LGESS 95 例、HGESS 64 例、UDS 29 例)



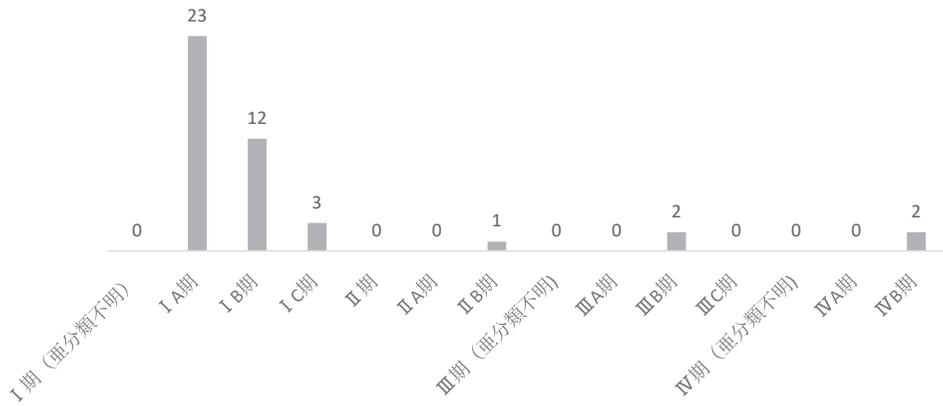
視鏡学会)で見直しを行い、名称を「子宮頸癌に対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)に関する指針」に変更し、保険収載術式に適合するよう適応、術者規定を変更した。2020年8月1日に公開し、2021年1月より同指針を適用した。③「日本産科婦人科学会腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)登録施設施行規則」と申請書の見直しを行い学会HPに掲載した。

(4) 子宮頸癌取扱い規約改訂に関する小委員会
委員長 片渕秀隆

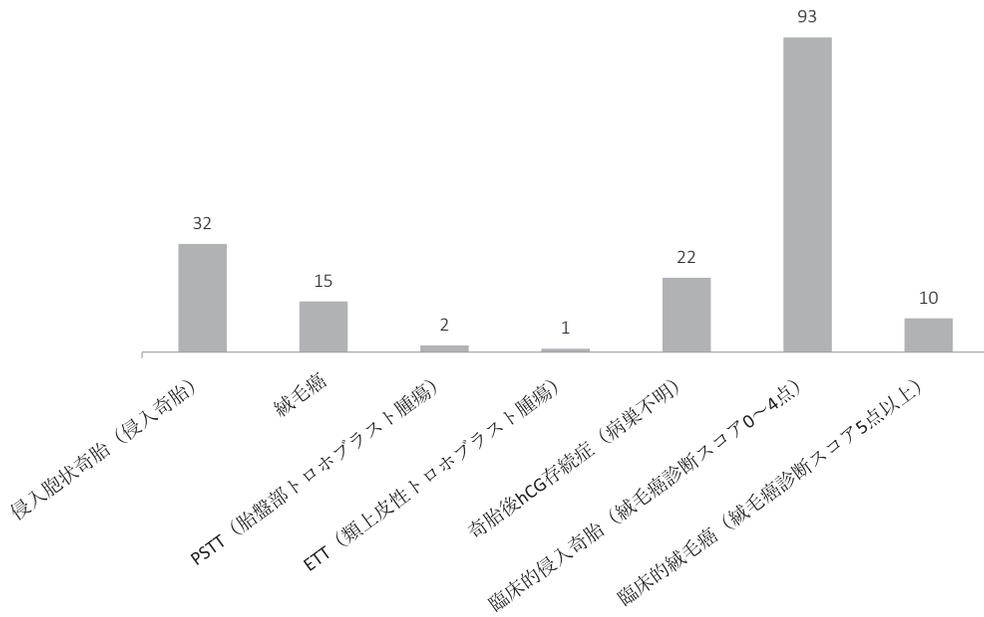
委員 青木大輔, 小林陽一, 生水真紀夫,
馬場 長, 森重健一郎, 吉野 潔

① FIGO は 2018 年 11 月に子宮頸癌の進行期分類を改訂し、誌上に発表した。これに伴い、本学会が 2012 年に発行した「子宮頸癌取扱い規約 第 3 版」の見直しをする編集委員会を小委員会内に 2019 年 7 月に設置し、改訂作業に着手した。編集委員会とコアメンバー

子宮腺肉腫 43例



絨毛性疾患 175例



会議をウェブで3回開催し、11月上旬に最終原稿の校閲、11月下旬の校了、12月20日に「子宮頸癌取扱規

約 臨床編 第4版」を発刊した。新規約は、2021年1月以降の症例から導入した。